

横浜市小学校社会科研究会

4 学年B部会

研修会記録

第 3 号

令和2年 10月 21日

横浜市小学校教育研究会

会長 相 澤 昭 宏

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅 田 比 奈 子

同 学年部長 廣 瀬 貴 樹

【提案日時】

9月 9日（水）

【会 場】

横浜市立平沼小学校

提案 呉屋 雄紀 先生（師岡小）

蓮實 聡太 先生（岡津小）

司会 小泉 斎 先生（山元小）

記録 福地 啓人 先生（洋光台第三小）

＜実践提案① 師岡小学校 呉屋雄紀先生＞ 4年生「わたしたちの神奈川県のみちづくり」

【自評（提案について）】

- ・川崎の特色：工業、人口増加(大都市6位)、スポーツ芸術、ショッピングなど
国際交流の印象は薄い
- ・人口に目を向け、国際交流の視点につなげていった。
- ・単元を見通す学習問題「人口増加率1位の川崎市にはどんな特色があるのだろう」
- ・児童が自然に意見を言える環境づくりをした。
→魅力的な出会い：国際交流センターのNさん、通訳ボランティアのSさん(中国籍)
→ふり返りを共有することで、主体性が見られた(進んで調べていた)
- ・代表者会議に日本人が参加できないことから、日本人がいた方がいいのではという意見と、外国の方のみの方が話しやすいという意見が出てくる。

【討議】

- ・何をもって国際交流と捉えるのかを明確にするとよい。
- ・市が行っているフェスティバル等の具体的な取組を取り上げて国際交流を扱うと、市の取組について知ることができるのではないか。
- ・代表者会議に日本人が参加していないことに違和感のある児童は少ないのではないか。
- ・国際交流センターは、姉妹都市などの中心的存在である。昔は海外に行く人の支援をしていた。今は川崎市の外国人と日本人との共生を担っている。その一つがフェスティバルである。

＜実践提案② 岡津小学校 蓮實 聡太先生＞ 4年生「発見！神奈川の魅力をさぐろう」

【自評（提案について）】

- ・伊勢原大山で250年続く大山ゴマ(土産品)を取り上げた。
- ・コマは、くるくる回ることから家内安全として土産品として作られてきた。
- ・金子吉延さんを取材、年800個のコマを制作している。
- ・紐は福祉施設の人が作っている。
- ・伊勢原と連携したコマ回し大会によって、地域の多くの人々の協力関係ができる。
- ・大山阿夫利神社から特色ある地域との関係が見える。

視点①として

- 教材の選定(子どもの興味関心・追究意欲)
- ぶり返りの時間の確保(学習の立ち位置・学習の見直し)
- 「単元を見通す学習問題」の設定(子どもの見通し・学習計画を立てる・自分の考えをもつ)

視点②として

- 地域素材を通して(人物との出会い・まちへの愛着)
- 座席表の活用、意図的指名(子どもの見とり・視点を変える)
- 「本気の学習問題」の設定(追究意欲・子ども同士の深め合い・大山の魅力に迫る)

成果と課題

- まちづくりと大山コマをどのようにして関連付けていくか。
- 「大山のまちってどんなところ？」を最後にもってきた意図は、よさを再確認するため。
- 具体的なものを上手に生かしたところが意欲につながった。
- コマづくりへの思いだけでなく、地域での位置づけもあった方がよかった。

<先輩の先生から>

瀬ヶ崎小学校 校長 梅田 比奈子 先生

- 課題別提案はとても大切である。特に新単元での提案もあり、とても有意義なものだった。
- 今日提案していただいたことをそれぞれが広めていくことが大切。

文責 小沢 暢志 (獅子ヶ谷小学校)